

刑事訴訟法

平成21年1月10日(土) 15:00~16:30

解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題の中を見てはいけません。
2. 問題用紙は1枚、解答用紙は2枚(各問について1枚)、下書き用紙は1枚です。
3. 解答用紙には、熊本大学大学院法曹養成研究科の受験番号のみを記入し、氏名は記入しないで下さい。
4. 解答用紙は、第1問と第2問とで異なります。それぞれ正しい用紙に解答して下さい。
5. 解答は横書きにして、各問につき1枚の解答用紙(裏面使用も可)に収めて下さい。解答用紙の追加・交換はしません。
6. 解答にはボールペンまたは鉛筆を使用して下さい。
7. 問題の内容に関する質問には応じません。
8. 貸与した六法に書き込みをしてはいけません。
9. 試験終了後、問題用紙および下書き用紙は持ち帰って下さい。

【第1問】（配点：50点）

Xは、平成20年12月25日午後11時頃、熊本大学黒髪北キャンパスグラウンドにおいて、瀕死の重傷を負わせた実子であるA（生後35日）に対し父親としてこれを保護し救護すべき責任があるにもかかわらず、何ら救護の措置をとることなくAをその場に置き去りにしたとの訴因で起訴された。審理が進む中で、置き去りにした時点ですでにAは死亡していた可能性もあるとして、同じ日時場所においてXがAの死体を置き去りにしたとの訴因が予備的に追加された。さらに審理が進められたが、結局、各訴因の置き去り時におけるAの生死は不明であった。

裁判所はXに対しどのような判決を言い渡すべきか論じなさい。その際、Xには、置き去りの時点でAが生きていれば保護責任者遺棄を、死亡していれば死体遺棄を行うとの故意が認められることを前提にして下さい。

【第2問】（配点：50点）

強盗の嫌疑がかけられているXは、平成20年12月23日午前7時15分頃、出勤のため自宅を出たところで司法警察職員から同行を求められ、警察車両に同乗し同日午前7時40分頃熊本東警察署に到着した。黙秘権を告げられたうえ、取調室で取調べが直ちに開始された。取調べは、昼・夕食時に各1時間など数回の休憩をはさんで、翌24日午前零時過ぎ頃まで断続的に続けられた。その間、取調室には取調官の他に立会人が1名配置され、休憩時や取調官が所用のため退出した際にも、その立会人が常にXを監視した。また、Xは用便時の他一度も取調室から外へ出たことはなく、用便の際も、立会人が同行した。司法警察職員は、同23日午後10時40分頃、通常逮捕状の請求をなし、熊本地方裁判所裁判官からその発付を得て、翌24日午前零時20分頃、Xを逮捕した。同24日午後3時30分、本事件は熊本地方検察庁検察官に送致され、検察官は翌25日午前9時15分に熊本地方裁判所裁判官に対して勾留を請求した。

本件勾留請求を認めるべきか否かについて論じなさい。

以上